ASV対応事業者へシフト

認定工場年度内1000社へ　高度化講習受講も

日車協連

日本自動車車体整備協同組合連合会（日車協連、小倉龍一会長）は「ASV対応優良車体整備事業者」へのシフトを急ぐ。5月末で約100のある認定工場を今年度内に約4千社、10倍に増やすほか、認定要件の一部である「高度化車体整備技能講習」を4千人に受講してもらう考え。車載式故障診断装置（OBD）車検も2024年度に控えており、業界を挙げた対応が求められるところだ。

会員工場のASV対応を促す（イメージ）

ASV対応優良車体整備事業者は、国や自動車協連などが進める「車体整備の高度化・活性化に向けた勉強会」でまとめた、工場資格や設備要件、事業所要件、人的要件などの基準を設けており、会員工場からの申請を審査して認定する。今年は全国で一千社の取得を目標とし、多くの事業者の認定取得に向けて周知活動などに取り組む。

OBD車検では外部故障診断機（スキャンツール）取り扱い技術の習得に加え、バンパーやガラス交換に伴うカメラやセンサーのエーミング（機能調整）が求められる。車検には関係しないものの、車体整備事業者にも修得の一環としてこうした作業が求められる可能性がある。

また、日車協連が認定資格の一つとして実施する高度化講習は、第一弾としてASV対応をテーマに昨年実施し、約2千人が受講した。今年は窓口接客をテーマとし、4千人の受講を目指す。車体の高剛性化や軽量化を目的に、超高張力鋼板やアルミなどの採用が拡大している。車体修復を手がける事業者の技術力を底上げすることが不可欠と判断し、再教育のテーマとした。

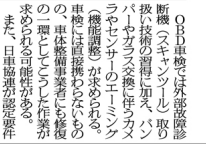
日車協連は、このほか、自動車業界や一般ユーザーなどに車体整備事業者の存在と技術力をPRするため、ホームページを刷新するなど広報活動も強化する。

安全自がサービスコン

団体優勝は関東支店　個人は遠藤恒さん（札幌支店）

整備機器総社の安全自動車（中谷宗定社長、東京都港区）は8、9両日、同社沼津センター（静岡県沼津市）で「第6回サービス技能コンクール」を開いた。7支店とグループ会社1社のサービスエンジニア55チーム24人が参加し、日頃の業務で培った技術や知識を競った。

コンクールは団体と個人に分け、団体は実技、個人は学科と実技で実施した。団体は床上作業台、行リフトの組み立て、保守点検、接客力に関する競技で、礼儀、礼節や工具の取り扱い方法などを評価した。個人競技は技術がハッドライトテスターなどの検査、故障診断・修理、学科が実施され、修理技術や整備機器の基礎知識などを競技の結果、団体は関東支店、個人は遠藤さんがそれぞれ優勝した。



▽団体上位入賞者は次の通り。（敬称略）

▽準優勝＝黒瀬康之（福岡支店）▽3位＝山﨑裕介（関東支店）

▽個人競技種目別

▽学科＝遠藤恒（札幌支店）

▽排ガステスター・オパシメーター＝山﨑裕介（関東支店）▽ヘッドライトテスター＝湯水洗治（関東支店）▽接客＝渋井真一（仙台支店）

▽準優勝＝黒瀬康之（福岡支店）▽3位＝山﨑裕介（関東支店）

タイ・バンコクに初のFC店開設

カーコンビニ倶楽部

自動車の車体修理サービスなどを手がけるカーコンビニ倶楽部（東京都港区）のタイ合弁会社で、修理工場「カーコン」を展開するカーコンビニは、初のフランチャイズ（FC）店を首都バンコクにオープンさせた。

FC1号店は「SCGカーコン」の名で、タイの素材最大手サイアム・セメント（SCG）系のSCGオートサービスがフランチャイジーとして運営する。バンコク北部ウィパヴァディー・ランシット通りの繁華街1ライ（1600平方㍍）の敷地に開発し、投資額は千万㍑（約3430万円）で、整備能力は一カ月当たり80台。料金は2500㍑から。

同社のナタポン社長は、年内にバンコクで2～3店、2022年には全国で50～60店まで店舗網を拡大したいと述べた。同社は、タイの大手商社ロクスレーが51%、カーコンビニ倶楽部が40%、ラオスの自動車販売大手でロクスレーと取引のあるKRグループが9%を出資。16年、直営店の1号店をバンコクに出店している。

ナタポン社長は、数年以内に高さこだわるほか、アップデートも頻繁に行い、利便性の向上などにも努めている。

ユーザー登録数累計5万件達成

ツールプラネットのスキャンツール

ツールプラネット（浅野信社長）の故障診断機（スキャンツール）のユーザー登録数が累計5万件を達成した。同社は国内生産による品質の高さにこだわるほか、アップデートなどの商品でも高価なものに負けないよう開発に取り組んでいる」と語った。

こうした姿勢がユーザー数の拡大につながり、2000年3月に「TPM」を発売以来、8年での5万件到達となった。現在では複数社に対しOEM（相手ブランド供給）による生産・供給を手がける。

同社の寺川佳秀取締役は「高いから良いものではなく、リーズナブルな商品でも高価なものに負けないよう開発に取り組んでいる」と語った。

課題決解　ここが決め手＝80＝

先進安全技術に対応　購入補助金の活用を

先進安全自動車（ASV）の普及が進んでいます。緊急ブレーキや車線逸脱警報装置、踏み間違い防止装置など、様々な先進安全技術を搭載したクルマが登場しており、昨年の新車販売に占める緊急ブレーキ搭載車の比率は約7割にも達しました。

国は2020年までに自動ブレーキの新車搭載率を9割以上にする目標を掲げています。これが達成されると保有台数に占める割合は3～4割に高まるため、使用過程車における性能維持が従来以上に重要になってくるのです。

ASVの点検整備に必要なのがエーミング（機能調整）作業です。先進安全技術の検知センサーとして使用されるカメラやミリ波レーダーなどが正しく機能するための初期化作業です。外部故障診断機（スキャンツール）が欠かせません。国はスキャンツールの普及を急ぐため購入補助金を用意しており、今年もまもなく始まる見込みです。

しかし、中山間地に工場を構える脇光輪業の野原龍三社長はスキャンツールの購入に二の足を踏んでいます。入車車両は地元の農家で使われる軽トラックが中心で、エーミング作業が必要な車両を扱ったことがありません。スキャンツールを購入する費用対効果を考えると「宝の持ち腐れ」になってしまう可能性が高い上「知識もスキルもない」と悩んでいます。

一方で、自動車技術を取り巻く環境が激変し、メカニカルな点検整備だけで安全が担保できるとも考えていません。野原社長は、軽トラックにも緊急ブレーキが装着され始めたことでスキャンツールの購入を決めました。補助金も活用する予定です。

損保会社が開催するセミナーに参加したことも背中を押しました。「足元の技術を習得し続ければ自動運転にも対応できるようになる」と講師から言われたからです。野原社長はスキャンツールの購入を機に「地域の交通、お客様の安全を自動運転社会になっても守っていきたい」と強く思うようになりました。

（社名・人名等は仮名です）

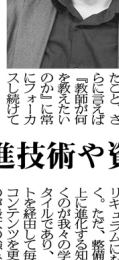
輝けメカニック　整備工場の人づくり〈80〉

様々な実務を仮想体験し学ぶ

自動車整備

エレクチュード開発兼創業者

ジョン・フラーCVO（最高ビジョン策定責任者）



整備のさまざまな実務を仮想体験しながら学べるトレーニングする場「エレクチュード」。1千以上のカリキュラムをそろえ、自分に必要な分野をいつでもどこでも学べる。オランダで開発され、現在は50カ国以上で整備学習に使用されている。日本でも今年4月から発売された。開発元のジョン・フラーCVO（最高ビジョン策定責任者）に開発の経緯や事業展開について聞いた。

（村上 暁）

―1980年に開発したそうだが、経緯は「当時、オランダでは自動車産業が盛んだったため整備士をトレーニングする場が不足していた。業界としては国に改善を求めたところ、政府が進めていたオンライン学習教育システムに自動車整備を盛り込むことが決まった。オランダでは政府と連携し、整備士の学習システムを作ることが重要だと考えた。オランダは電子工学を学んでいた私に依頼があり、BMWやホッシュなどの協力を得ながらこの学習ツールを開発した。その後、改良を重ね、08年から現在のクラウド型になった」

―オランダは広く、オランイン学習に着目したのか

「28年前、オランダの教育現場では教師がテクノロジーの進化についていけず、学生はゲームばかり。政府は学習時間の不足を危惧し、勉強させたいが方法が見つからない状況に陥っていた。こうした社会的な課題を解決できる方法が、オンライン上で学習内容を確認でき、ゲームなどを手がけるカーコンビニ倶楽部（東京都港区）のタイ合弁会社で、修理工場「カーコン」を展開するカーコンビニは、初のフランチャイズ店をFC展開し、2022年には全国で50～60店まで店舗網を拡大したいと述べた。同社は、タイの大手商社ロクスレーが51%、カーコンビニ倶楽部が40%、ラオスの自動車販売大手でロクスレーと取引のあるKRグループが9%を出資。16年、直営店の1号店をバンコクに出店している。

ナタポン社長は、数年以内に高さこだわるほか、アップデートも頻繁に行い、利便性の向上などにも努めている。

こうした姿勢がユーザー数の拡大につながり、2000年3月に「TPM」を発売以来、8年での5万件到達となった。現在では複数社に対しOEM（相手ブランド供給）による生産・供給を手がける。

同社の寺川佳秀取締役は「高いから良いものではなく、リーズナブルな商品でも高価なものに負けないよう開発に取り組んでいる」と語った。

楽でも、実務を学ぶ。

―現在では55カ国で使用されている。

「アメリカ、ドイツ、イギリス、オランダの4カ国では政府と連携し、整備士の学習ツールとして活用が進む。世界中で支持を得られたのは、開発したものを提供するだけでなく、各国の学校のシステムを変えずに導入できるようにしたこと、さらに言えば『教師が何を教えたいのか』に焦点にフォーカスし続けているからだと考えている。同じような商品がなく、競合がいなかったことも活用が進んだ一因だと感じる。フィリピンでは整備士資格の模擬試験に使用され、本番前に自己の合格率を測るのに役立っている。日本でも学習事情に応じて柔軟に活用してほしい」

―ハイブリッドや電気自動車（EV）など次世代技術にも対応するのか

「学習内容は絶えずアップデートしており、先進技術のカリキュラムにも対応している。ただ、整備の基礎知識の上に進化する知識を足していくのが我々の学習ツールのスタイルであり、インターネットを経由して毎週でも機能やコンテンツを更新しているのが最大の強みだ。進化し続ける学習ツールとして今後も提供し続けていきたい」

新製品

動力式トルクレンチ4機種一新

東日製作所

トルク管理機器開発・製造・販売を手がける東日製作所（佐野社長、東京都荒川区）はこのほど、動力式トルクレンチ（ナットランナー）写真＝の4機種を一新して発売した。ナットランナーは、ボルトやナットの締め付け作業やトルク管理用だ。新たにトルクセンサーを内蔵し、機械式制動変速機によるスピーディーな締め付け作業ができる。設定トルクに達すると自動停止し、締め付けトルクを表示するとともに弱反転を自動的に開始してソケットの食いつきを外す機構も設けた。締付トルク精度は±5%で校正証明書が付く。締付トルクはシリーズ全体で0～1200㍍㌔。

価格（消費税込み）は69万9840～82万4256円。

中古車仕入・業販ツールの決定版
AS NET エーエス・ネット®
共有在庫とAA出品車両で900万/年掲載しています!!
会員募集中　入会金 無料　月会費 無料
お問い合わせ・資料請求は
オートサーバー　検索
AS 販売オートサーバー
☎03-5695-9450

IYASAKA　イヤサカが提案する車検ビジネスの進化形
アイディスアルファ
iDISα
検査ライン・コントロール・表示・判定システム
来店型車検ビジネスの実現を強力にサポートいたします！
●ワイド画面・アニメーションを採用。新鮮な画面デザインにより、見やすさと操作性が向上しました。
●多彩な機能と使い易い操作性。合否判定を瞬時にディスプレイ表示。
ワイドLCD表示器で視認性向上！
販売元　株式会社イヤサカ　本社／〒113-0034 東京都文京区湯島3-26-9　TEL 03-3833-6110　FAX. 03-5688-7074
製造元　彌榮精機株式會社　〒270-1338 千葉県印西市松崎台1-8-4　TEL.0476-85-6677 FAX.0476-85-6678

SST Import Tools The Special Service Tools
Handy Label　プロメカニックツール
身近で便利な工具が満載！
輸入特殊工具カタログ　Import Handy Tool
ハンディーレーベル
プロ仕様・あると便利な特殊ツールを、お買い得価格でラインナップ！
輸入発売元　日平機器株式会社
URL：http://www.nippeikiki.co.jp/

汎用スキャンツールの頂点、ジースキャン
ASV車両のカメラ・レーダーエーミングにも国産乗用車全メーカー対応！
製品について詳しくは "g-scan.jp" または "販売店" にお問合せください
G-SCAN
G-scan 2　G-scan Tab
株式会社 インターサポート
茨城県水戸市城南 1-6-39

好評発売中！電子整備のバイブル
図版多用で理解しやすい
わかりやすい電子整備の本
自動車の電子制御
電子整備解説の決定版!!
日刊自動車新聞社　お問合せは ☎03-5777-2308　お申込用 FAX 0120-461-490
インターネット書店 ~NJD-BOOKS~
URL http://njd-books.online-store.jp/